

**2017 年度  
一般社団法人 CIEC 定時社員総会**

**議 案 書**

**2017 年 8 月 6 日(日)**  
**慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス**  
**(〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322)**

## 【2017 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第1号議案. 2016 年度事業報告と 2017 年度事業計画承認の件 .....	1
第 2 号議案. 2016 年度決算承認の件	
・財政報告 .....	3
・貸借対照表 .....	6
・損益計算書 .....	7
・計算書類の注記表.....	8
・附属明細書 .....	9
・監査報告書 .....	10
第 3 号議案. 2016 年度収支差額処分承認の件 .....	11
第 4 号議案. 2017 年度予算承認の件 .....	12

## 【資料】

資料 1. 2016 年度活動報告と 2017 年度活動方針.....	15
・専門委員会	
・部会	
・支部	
・MERLOT	
資料 2. CIEC 活動報告.....	25

2017年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書  
議案1. 2016年度事業報告と2017年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECは、2013年6月から一般社団法人CIECとして、設立以来の目的を引き継ぎながらこの4年間活動してきました。本議案では、2016年度の事業報告と2017年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会活動の報告は、それぞれの委員会や部会報告にゆだね、ここでは全体に関わる2016年度の取り組みの要点と2017年度事業方針について記します。

### 1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは2013年6月に一般社団法人CIEC設立総会を開催し、一般社団法人として活動を続けてまいりました。ここ数年の学校教育を取り巻く環境の変化は大きく、高等教育の無償化、大幅な大学入試改革などの議論が本格化しています。また、指導要領改訂に伴い、プログラミング教育の必修化、語学教育における4技能評価の導入などが予定されており、ICTを利用した教育の更なる充実が必要となってきました。さらに、教育職員免許法および同施行規則の改定により、教職課程の内容の改善も求められており、新たに加える内容の例として、「アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善」「ICTを用いた指導法」などがあげられております。この改定により課程認定を受けているすべての大学等は平成30年度中に再認定を受ける必要があり、新たな教育内容に対応して教員の業績審査も新たに必要となります。

今こそ、CIECが長年取り組んできたICT利用教育に関わる成果を社会に発信し、その評価を受けながらさらに発展させていく時期に来ていると考えられます。そこで本年度はHPを通じた情報発信をさらに強化し、委員会、部会、支部、WGの活動を積極的に公開していきたいと考えています。そのことにより、ICT利用教育に関わる情報交換・情報発信の場としてのCIECの魅力を多くの教育関係者にアピールし、個人・団体会員の増加を目指したいと考えています。

### 2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2016PCカンファレンス」は、2016年8月10日、11日、12日に大阪大学で全国大学生協連との共催のもと770名の参加で開催されました。今回のPCカンファレンスは、「科学技術の高度化・複雑化する中、知を協奏（concert）することにより、知が共創（co-creation）される」という大阪大学が掲げるビジョンと「コンピュータを利用した教育を広い視野でとらえ、教育者、研究者、学生、そして教育研究を支える人々が共同して学びあう」というCIECの理念の下、「知の協奏と共創」というテーマを定めました。

まず2件の基調講演として、大阪大学理事・副学長の小林傳司先生より「日本の高等教育における教育情報化を考える」と題した講演、および、京都大学経営管理大学院長・CIEC理事の若林靖永先生より「知が変容しつつあるいま、教育・学習はどうあるべきか」と題した講演がありました。これらの基調講演を受け、「多様なメディアを高度に利用する授業形態の高度化」および「MERLOT型ラーニングコミュニティ支援とは」という2つのシンポジウムが開催されました。さらに、セミナー、イブニングセッション（交流型・ワークショップ型）が開催されました。分科会では98本（口頭67本、ポスター31本）の発表がありました。

「2017PCカンファレンス」は慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）にて8月5日、6日、7日に開催されます。全体テーマは「創造する学びーアクティブ・ラーニング2.0」です。

「今回のPCCでは、相互行為・役割設定・状況規定と制度設計そして学びの本源的価値、それらすべてにおいて既存のスタイルが変容する多様な可能性を、ワークショップなどの実践を通して、みなさんと一緒になって思考する新しいスタイルを導入してみよう、と考えています。創造的な学びがSFCの現場から生成されるPCカンファレンスにしたい、それが2017PCCの大会方針です。ぜひ、みなさんの想像を超えた参加を期待します。」（開催概要より抜粋）。

### 3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部／WGの活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自らCIEC研究会の企画実施を担当するとともに、部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。2016年度は、CIEC春季研究会2017が実施され、「CIEC

研究会報告集 Vol. 8」を刊行しました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し41号と42号を刊行しました。広報・ウェブ委員会は刷新されたCIECのホームページを通して様々な情報発信を行いました。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて引き続き情報提供をすすめています。

部会は、会員の自発的組織化として始まり、小中高部会、外国語教育研究部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC研究会を5回実施しました。外国語教育研究部会は学習会を2回実施しました。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当てPCカンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部はCIECの地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しております。北海道支部では、PCカンファレンス北海道（札幌学院大学）および、他団体と共催での研究会を開催しました。九州支部は、11月に九州PCカンファレンス（大分大学）を開催しました。本年度10月には、九州PCカンファレンス（北九州大学）、PCカンファレンス（北海道室蘭工業大学）の開催を予定しております。

2016年度から新たにWG（ワーキンググループ）としてMERLOT WGが設置されました。MERLOT WGは、CIECがグローバル化の一環としてMERLOTプロジェクトに参画することになったのを機会に、会員からのOER（Open educational resources）の積極的な提供を目的としています。2016年度は、PCカンファレンスでのシンポジウムの企画、ワークショップの企画運営を行いました。

#### 4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度766名（2017年4月）となりました。個人会員が1000名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PCカンファレンスや研究会などへの未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また団体会員は団体85（2017年4月）であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設など、団体会員とのコラボレーションを追求します。

#### 5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっており、編集委員会によって査読制度も確実に運営されており、年2回の会誌発行を順調にすすめてきました。最新号を除く会誌はJSTAGEで公開されており、最新号も発行の6か月後には公開されます。

また、ニューズレターについては完全Web化して会員への情報提供をすすめています。CIECホームページも内容の更新を実施しています。新ホームページにおいては、今まで以上に各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

#### 6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も頭打ちの状態となっております。引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進などで収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図ります。役員交通費の削減にも取り組みたいと考えております。

CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期的会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。

日常的なCIEC活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2017年度においても引き続き現行の体制を維持し、法人としての事務局活動を進めます。

以上

## CIEC2016 年度財政報告

## 〔概況〕

2016 年度決算は赤字となりましたが、予算案では経常損失金 30 万円が見込まれていたのに対し、7 万円の損失に留まりました。

事業費・管理費ともに三役・理事会の管理のもと各委員会・部会・支部が費用の節約や効率的な支出に努めました。

(文中の金額は原則として千円以下切り捨て、詳しくは損益計算書をご覧ください)

## 〔経常損益の部〕

## I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 1,157 万円／予算 1,210 万円

- ・ 個人会員会費収入は 420 万円で予算対比 19 万円の減 (-4.0%)、団体会員会費収入は 737 万円で予算対比 33 万円の減 (-4%) となりました。

<会員状況>	2016 年 4 月 1 日	2017 年 3 月 31 日	2017 年 4 月 1 日
個人会員	790	822	766
団体会員	85	85	85

2. 財務収益 900 円／予算 2 千円

- ・ 受取利息 900 円

## II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 767 万円／予算 811 万円

(1) 会議費用 258 万円／予算 215 万円

- ・ 専門委員会の会議費用が、昨年度に予算を減額したため、予算を上回る委員会もありました。

(2) 会誌発行費用 255 万円／予算 250 万円

- ・ Vol. 41, Vol. 42 を発行しました。

(3) 広報費用 6 万円／予算 15 万円

- ・ 2015 年度活動紹介パネルを作成しました。
- ・ CIEC ウェブサイトの Special 記事の費用を支出しました。

(4) 研究会費用 72 万円／予算 68 万円

- ・ 地域 PCC 派遣・支援費用では、北海道 PCC に副会長が参加して交流を深めました。
- ・ 2016 年度は春季研究会及び第 108 回, 109 回, 110 回, 111 回, 112 回の研究会を開催しました。
- ・ 春季研究会では CIEC 研究会報告集 vol. 8 を発行しました。

(5) 調査費 4 万円／予算 5 万円

- ・ 北海道支部により教科「情報」の調査が行われ、その結果は PCC 北海道で発表されたほか、協力各大学で有効活用されています。

(6) 事業活動費用 40 万円／予算 71 万円

- ・ 三役会議費用, 電子証明書費用, および JMOOC 協賛会員の年会費などです。

(7) 支部活動援助金 34 万円／予算 61 万円

- ・ 北海道支部 24 万円および九州支部 9 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(8) 部会活動援助金 48 万円／予算 85 万円

- ・ 外国語教育研究部会 21 万円, 小中高部会 26 万円, 生協職員部会 0 円の実績です。3 部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9) 学会表彰事業費 6 万円／予算 10 万円

- ・ 学会賞の副賞と受賞者の交通費です。

(10) 教育出版 0 円／予算 1 万円

(11) 周年事業費用 39 万円／予算 30 万円

- ・ Dr. Hanley 謝礼, 宿泊費, CIEC ご案内リーフレット, MERLOT ワーキンググループ会議交通費, 第 1 回, 第 2 回 MERLOT ハンズオンワークショップの交通費です。

2. 管理費用 397 万円／予算 429 万円

(1) ネットワーク運営費 9 万円／予算 10 万円

- ・ 保守管理業者委託費, サーバー更新料, ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジスリーサービス)の費用です。

(2) 事務局通信費 19 万円／予算 30 万円

(3) 事務局業務委託費 300 万円／予算 300 万円

(4) 事務用品費 28 万円／予算 38 万円

(5) 備品購入費 0 円／予算 10 万円

(6) 管理委託費 15 万円／予算 20 万円

- ・ 登記手続き費用, 会計システム費用, 会計顧問料で, 15 万円です。

(7) 雑費 24 万円／予算 20 万円

- ・ 個人情報取扱事業者保険料, 書籍 JAN コード更新料, 振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課 0 円／予算 2 千円

[経常外損益の部]

III. [経常外収益]

・ 雑収入 7 千円／予算 0 円

- 印税, 会誌売上および春季研究会参加費です。

IV. [法人税等]

7 万円／予算 7 万円

- ・ 法人都民税 7 万円を納めました。

V. [当期利益金]

37 万円の赤字予算に対して，14 万円の赤字に留まりました。

以上

## 計 算 書 類

## 第1 貸借対照表

貸 借 対 照 表  
2017年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,444,995	流動負債	7,162,371
現金及び預金	19,318,723	未払金	104,371
未収金	126,272	前受金	7,058,000
		負債合計	7,162,371
		(純資産の部)	
		その他	12,282,624
		正味財産	12,282,624
		繰越利益剰余金	12,282,624
		純資産合計	12,282,624
資産合計	19,444,995	負債・純資産合計	19,444,995

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」  
(2013年1月25日 経済団体連絡会) に準拠して作成しています。



## 第2 損益計算書

## 損 益 計 算 書

(自2016年7月1日 至2017年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,203,000	
2) 団体会員会費収入	7,370,000	
	11,573,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	992	
	992	11,573,992
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,589,111	
2) 会誌発行費用	2,556,611	
3) 広報費用	66,500	
4) 研究会費用	725,156	
5) 調査費用	49,200	
6) 事業活動費用	407,082	
7) 支部活動援助金	343,912	
8) 部会活動援助金	482,050	
9) 学会表彰事業費用	63,451	
10) 周年事業費用	394,721	
	7,677,794	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	98,236	
2) 事務局通信費	190,263	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	284,394	
5) 管理委託費	159,614	
6) 雑費	241,742	
	3,974,249	11,652,043
	経常損失金	78,051
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 雑収入	7,565	7,565
	IV 税引前当期損失金	70,486
	V 法人税等	70,000
	VI 当期損失金	140,486

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(2013年1月25日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

## 第3 計算書類の注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

## ①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

## ②資産の評価基準及び評価方法

## (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

## 2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

## 3. 金融商品に関する注記

## (1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

2017年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	19,318,723	19,318,723	-
資産計	19,318,723	19,318,723	-
③前受金	7,058,000	7,058,000	-
負債計	7,058,000	7,058,000	-

## (注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

## ①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

## ②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

## 附属明細書（計算書類関係）

## 主な資産および負債の明細

## (1) 現金預金 (単位：円)

内 訳	金 額
現金	782,491
当座預金 ゆうちょ銀行	2,225,390
普通預金 りそな銀行	4,193,931
普通預金 中央労働金庫	2,116,911
定期預金 中央労働金庫	10,000,000
合 計	19,318,723

## (2) 前受金

内 訳	金 額
次年度個人会員会費	3,228,000
次年度団体会員会費	3,830,000
合 計	7,058,000

2017年7月18日

## 監査報告

一般社団法人CIEC（コンピュータ利用教育学会）  
会長理事 熊坂 賢次 様

監 事 板倉 隆夫



監 事 若林 靖永



監 事 佐藤 和之



第5期事業年度の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録、重要な決裁文書及び報告書を閲覧しました。

### 2. 監査の結果

- 1) 事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の議決の内容は相当です。
- 4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

### 3. 追記情報

ありません。

以 上

第3号議案 2016年度収支差額処分承認の件

2016年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>12,282,624 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>12,282,624 円</u>

上記のとおり、2016年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 CIEC (コンピュータ利用教育学会)

会長理事 熊坂 賢次

## 2017年度予算計画

## I. [経常収益について] 1,210万円

## 1. 会費収益 総額 1,210万円

- ・ 個人会員会費収入は 440 万円の計画とし、会員の新規加入を促進します。
- ・ 団体会員会費収入は 770 万円の計画として、団体会員の新規加入を推進します。
- ・ PC カンファレンスや研究会などを通じて会員獲得を目指します。
- ・ 会員獲得について計画化と組織的取り組みを図ります。

## 2. 財務収益

- ・ 受取利息で 2 千円を計上します。

## II. [経常費用について] 1,210万円

## 1. 事業費用 総額 791万円

## 1) 会議費用 235万円

- ・ 総会費用は、20 万円を計上します。
- ・ 理事会は、12 月、3 月、6 月の 3 回分 110 万円を計上し、機関会議の軸とします。
- ・ 広報・ウェブ委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 10 万円を計上します。
- ・ WG (MERLOT) に 20 万円を新たに計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 35 万円を計上します。

## 2) 会誌発行費用 250万円

- ・ 12 月の 43 号、6 月の 44 号発行を計画します (取材・送料込)。
- ・ JSTAGE への最新号登載費用 10 万円を計上します。

## 3) 広報費用 20万円

- ・ 案内リーフレットと 2016 年度活動紹介のパネル作成費用として 5 万円を計上します。
- ・ HP 構築運用費として 15 万円を計上します。  
(内訳は Special 記事取材費用として 10 万円、PC カンファレンスアーカイブ費用として 5 万円とします。)

## 4) 研究会費用 総額では 63 万円 (研究会 50 万円)

- ・ 北海道および九州 PCC 支援のための派遣費用として 10 万円を計上します。
- ・ 研究会費用を 50 万円計上します。
- ・ 研究会報告集費用は 3 万円を計上します。

## 5) 調査費用 5万円

- ・ 教科「情報」調査のための費用を 5 万円計上します。

## 6) 事業活動費用 51万円

- ・ 三役会議は 3 回開催とし、30 万円を計上します。
- ・ 諸会費等は、JM00C 年会費などで 11 万円を計上します。
- ・ 事業委託費は 10 万円を計上します。

## 7) 支部活動援助金 61万円

- ・ 支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業 (地域 PCC, 研究会など) を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

## 8) 部会活動援助金 95万円

- ・ 部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 95 万円計上します。外国語教育研究部会

25万円，小中高部会 55万円，生協職員部会 15万円です。

9) 学会表彰事業費用 10万円

10) 教育出版費用 1万円

11) 周年事業費用 0円

2. 管理費用 総額 419万円

1) ネットワーク運営費 10万円

・ 保守管理業務委託費，サーバ更新料など。

2) 事務局通信費 25万円

3) 事務局業務委託費 300万円

4) 事務用品費 38万円

5) 備品購入費 10万円

6) 管理委託費 20万円

・ 法人会計の税務顧問料およびシステム運用費用として20万円を計上します。

7) 雑費 15万円

・ 振込，自動引き落とし，各種発行手数料などの費用として20万円を計上します。

8) 予備費 1万円

9) 租税公課 2千円

以上

## 一般社団法人CIEC 2017年度予算案

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,400,000	
2) 団体会員会費収入	7,700,000	
	12,100,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	2,000	
	2,000	12,102,000
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,350,000	
2) 会誌発行費用	2,500,000	
3) 広報費用	200,000	
4) 研究会費用	630,000	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	510,000	
7) 支部活動援助金	610,000	
8) 部会活動援助金	950,000	
9) 学会表彰事業費用	100,000	
10) 教育出版費用	10,000	
11) 周年事業費用	0	
	7,910,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	100,000	
2) 事務局通信費	250,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	380,000	
5) 備品購入費	100,000	
6) 管理委託費	200,000	
7) 雑費	150,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
	4,192,000	12,102,000
経常損失金		0



資料1：専門委員会，部会，支部，MERLOT2016年度活動報告と2017年度活動方針

※敬称略にて作成しております。

**会誌編集委員会**

1. 2016年度活動報告

(1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」41号（2016.12.1）の発行

- ・INTERVIEW 「働きながら学ぶ～ワークアカデミーからの理想の教材を目指して」  
大石博雄さん（株式会社ワークアカデミー会長）に聞く／中村泰之
- ・特集「デジタル教科書時代に向けての実践研究」：4本
- ・CIEC20周年記念シンポジウム報告
- ・2016PCカンファレンス報告
- ・事例研究：3本
- ・私の意見：1本
- ・本の紹介

※参考：一般投稿（特集，私の意見，報告，本の紹介を除く）8本（採択：3本，不可：5本）

※表紙のリニューアル（表紙の簡素化によって，経費の削減につなげるため。）

※特集は公募しました。

(2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」42号（2017.6.1）の発行

- ・INTERVIEW 「AI搭載ロボットで世界基準の外国語教育とグローバル人材育成を推進する」  
田中良一さん（株式会社GLOBAL VISION代表取締役社長）に聞く／横川博一
- ・特集「これからのICT教育環境基盤を探る」：3本
- ・事例研究：3本
- ・論文：1本
- ・ソフトウェアレビュー：1本
- ・報告：1本
- ・本の紹介

※参考：一般投稿（特集，報告，本の紹介を除く）11本（採択：5本，不可：6本）

※会誌編集委員会が新体制となりました。（編集長，編集委員の交代）

(3) 会誌編集委員会を次の日程（会場）にて開催しました。

第66回：2016年3月26日（生協会館），第67回：2016年8月11日（大阪大豊中キャンパス），  
第68回：2016年10月16日（生協会館），第69回：2017年3月26日（生協会館）

(4) 2016PCカンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために」を開催しました。

2. 2017年活動方針

(1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』43号および44号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。また、「本の紹介」については，従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。

(2) 査読体制の強化と査読の迅速性を図りながら，過重負担とならないよう，その体制とスケジュールの見直しを検討します。

(3) 巻頭インタビューについては，これまでと同様に CIEC 団体会員を中心として対談相手を選定すると同時に，団体会員外企業にも積極的にインタビューを申し込み，CIEC への理解を深めることを目指します。また，各種ソフトウェア・システムを有効に活用している実績のある個人についても，インタビューの対象としていきます。

(4) 会誌編集委員会を年3回程度開催する予定です。

(5) 団体会員の協力の下，会誌編集委員会主催もしくは他部会と研究会の共催について検討します。

(6) 学会賞選考委員会に編集委員会として協力を行います。

(7) 2017PCカンファレンスにおいても，昨年度に引き続き会誌編集委員会企画セミナー「『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために」を開催します。

**広報・ウェブ委員会**

1. 2016年度活動報告

広報・ウェブ委員会は，CIEC の広報全般，特にウェブサイトの運営等に取り組み，会員への情報提供，社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2016年度は，2015年度（2016年2月）にリニューアル

されたウェブサイトのコンテンツ充実を注力しました。主な活動成果は以下の3点にまとめられます。

(1) 独自コンテンツ「Special」の定期更新

委員持ち回りの更新体制を軌道に乗せました。2017年5月末時点で第11回まで掲載が進んでいます。取材を機に新規入会した企業事例もあります。また、既存会員へのサービス機能としての可能性も見えました。

(2) PCカンファレンスのアーカイブ方針の決定

CIEC最大のコンテンツといえる歴代PCカンファレンスのプログラムや論文が、異なるサイト上に散在する点は大きな課題です。その解決に向け、アーカイブ化の方針を議論し、作成手順をマニュアル化しました。

(3) サイト記事掲載の自律化

リニューアル後のサイトはCMSを導入しており、事務局をはじめ各委員会・部会・支部等に編集権限を付与しているため、本委員会を介さずに記事の掲載が可能です。徐々に自律的な内製化が進んでいます。

2016年度第1回広報・ウェブ委員会

日時：2016年8月9日（火）13:30-15:30

会場：大阪大学豊中キャンパス

- 議題
1. PCカンファレンスのアーカイブ化について
  2. SNSの活用について
  3. CIECロゴについて
  4. CIECウェブサイトの運用について 他

2016年度第2回広報・ウェブ委員会

日時：2016年11月20日（日）10:00-12:30

会場：大学生協杉並会館

- 議題
1. リニューアル後のアクセス解析報告
  2. PCカンファレンスのアーカイブ化について
  3. 委員会・支部へのCMS研修について
  4. Specialの定期更新について
  5. MERLOT連携強化について 他

2016年度第3回広報・ウェブ委員会

日時：2016年3月12日（日）11:00-12:00

会場：大学生協杉並会館

- 議題
1. PCカンファレンスのアーカイブ化について
  2. 委員会・支部へのCMS研修について
  3. Specialの定期更新について
  4. MERLOT連携強化について

## 2. 2017年度活動方針

2017年度の主な活動計画は以下の3点です。

- (1) 2007年以降のPCカンファレンスのコンテンツをアーカイブ化し、CIECウェブサイト上に公開します。
- (2) CMS研修会の実施やサポート体制の強化によって、委員会・部会・支部の自律的な投稿を常態化させます。
- (3) 独自コンテンツSpecial記事の定期更新を継続します。特に、団体会員紹介はシリーズ化を図ります。その他、アクセス解析結果を踏まえたサイトの改良、複数ドメインの有効活用、通信プロトコルの変更、CIECニュースとの同期化、MERLOTプロジェクトとの連携など、より一層の発信力強化、個人および団体会員へのサービス強化を図るための方策について検討します。

## 国際活動委員会

### 1. 2016年度活動報告

2016年度活動方針に基づき実施した研究会・海外視察の企画等の概要を、以下順次に記します。

(1) CIEC第108回研究会

テーマ：ここからはじめる「学び」のための学習分析(LA)  
- LAの海外事情と標準化活動を基礎にして -

日時：2016年7月24日（日）13:00-17:30

会場：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル9階第16会議室  
講演：演題「Learning Analyticsの概要と最新研究動向」  
講師 田村 恭久（上智大学教授 JASLA 理事長）  
演題「教育ビッグデータが開く新しい学習指導と大きな可能性」  
講師 寺澤 孝文（岡山大学大学院 教授 CIEC 会員）

参加者数：31人

概要：2015年度会誌（Vol. 38 2015）の特集で取り上げられた「ラーニングアナリティクスと教育クラウド」に関連し、ラーニングアナリティクス（LA）の欧米など海外での先進的な取り組み・最新動向に付いての講演とその特集号に掲載されているLAの実践に付いての講演を2軸とした研究会を開催した。

なお、当日の報告の詳細は次のサイトから閲覧できます。

<<http://www.ciec.or.jp/committee/conference/study/entry-989.html>>

## (2) 2017年海外（韓国）視察・交流企画参加募集とその実施

「CIEC ニュース 86」（2017年1月17日発行）にて本会員の方々へこの企画への参加者を募集し、次の訪問日程で視察交流を実施しました。以下、その概要を記します。

訪問日程：3月28日（火）、29日（水）、参加者数：10人

1日目視察概要：1日目午前中は、大邱市にある韓国教育学術情報院（KERIS）の金韓成（Kim HanSung）先生を訪問しました。KERISに到着すると本館にある「Future Education Center（未来教室体験教室）」に案内され、はじめに、スタッフの方からKERISの事業や役割と韓国の情報教育におけるICTの活用等について説明がありました。次に、今回の視察メンバーの八百幸先生が日本の情報教育の現状をスライドで紹介し、その後、KERISの教員の方々と視察参加者との間で情報交換を行いました。午後は、五星（0-Sung）中学校を訪問し、中学校1年生2クラスでのプログラミング教育を参観した後、意見交換を行いました。

2日目視察概要：ソウル市内の高麗大 情報大学 コンピュータ学科の李元揆先生を訪問しました。はじめに、李先生からスライドを用いて「韓国の情報教育」についての紹介がありました。その後、准教授 金子美（Kim JaMee）先生を含めた研究室の方々と情報教育・プログラミング教育を中心に意見交換を行いました。

なお、詳細はCIEC会誌『コンピュータ & エデュケーション』（Vol42（2017）pp59-61）に掲載される『韓国・情報教育の最先端を訪ねて』をご覧ください。

## (3) CIEC第112回研究会

テーマ：韓国でのプログラミング教育と教員養成

日時：2017年6月18日（日）10時～12時

会場：札幌北口カンファレンスプラザ（SANKO 札幌駅前ビル5階）  
北海道札幌市北区北9条西2丁目12-1

演題：韓国でのプログラミング教育と教員養成

講師：金子美（韓国・高麗大 准教授）、李元揆（韓国・高麗大 教授）

参加者数：20人（予定）開催後に人数を記載

委員会担当者名：橘 孝博

概要：今回の研究会は、PCカンファレンス2017のセミナーのプレ企画としての位置づけを持つもので、高麗大の金子美准教授に講演していただきます。研究会では、高麗大の李元揆教授に通訊および情報提供のご協力をいただく予定です。日韓での「学校における情報教育環境」、「情報系の教員養成」、「コンピュータプログラミング教育と教員養成」など幅広い視点での講演と議論がなされることを期待しています。（「CIEC第112回研究会」のサイト「開催趣旨」から一部引用）

なお、本研究会はCIEC北海道支部との共催です。

## 2. 2017年度活動方針

2017年度も昨年度の活動方針を引き継ぎ、次の方針に基づく活動を行います。

(1) 諸外国の学協会やその他組織との連携を探るため、既に調査実績のあるアジア・オセアニアの地域をはじめとし、北米・欧州等の地域も含めた諸外国におけるICTを活用した教育を中心とした情報収集ならびに調査研究

(2) CIECの目指す活動にかなう国際交流シンポジウムや研究会の開催に向けた取組活動

- (3) 会員の海外における情報収集の機会を支援するための支援環境構築に向けた立案企画  
 (4) その他、本委員会の目標を達成するための事業の推進  
 具体的には、2017PCカンファレンスにおいて次の「セミナー」を企画し開催する予定です。

#### セミナー1[Part1, 2]

開催日時：8月7日（月）12時～15時15分、

会場：Ω（オメガ）館11

タイトル：「創造のためのコンピューティショナルシンキング

－問題発見から問題解決へ導く力を育む－

趣旨：問題発見から問題解決へ導く力を育む教育とはどのようなものかについて考える。

Part1では、韓国でのプログラミング教育の事情と企業が求めるスキルについて

Part2では、小中高の教科で展開できる「Computational Thinking」について議論する。

委員会担当者名：橘 孝博

登壇者：CIEC 韓国視察報告 橘 孝博（早稲田大学）

Part1 パネリスト 金 韓成（KERIS）

小野田 哲也（マイクロソフト社）

山名 早人（早稲田大学）

Part2 パネリスト 小松 一智（都立石神井高校）

竹野 英敏（広島工業大学）

鹿野 利春（文部科学省）

なお、本セミナーはCIEC小中高部会との共催です。

### 研究委員会

#### 1. 2016年度活動報告

今年度実施されたCIEC研究会（第108回～第112回）について、計画状況、実施などについて確認し、HPにて告知をおこないました。このうち、第109回研究会「新しい情報教育環境 ～クラウドサービスがつくる新しい学びの環境～」(11月26日、日本マイクロソフトにて開催)は研究委員会が主催し、第108回研究会（詳細はHP参照）については主催する国際活動委員会に支援を行いました。

また、「CIEC春季研究会2017」を実施し「CIEC研究会報告集 Vol.8」（査読付き）を発行しました。詳細は以下の通りです。

#### CIEC 春季研究会 2017

日時：2017年3月25日（土）

会場：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京（参加者数 40名）

継続的に開催している研究会企画として「CIEC春季研究会2017」を実施しました。熊坂会長に参加いただき、議論の場にしようとの挨拶のもと、研究会終了まで参加者が席を立つことなく積極的な質疑応答が行われました。研究会の成果を踏まえ次なるステップとして、コンピュータ&エデュケーションへの投稿を促しました。

本研究会へは合計9本の投稿があり査読の結果、実践論文1編、萌芽論文4編、研究速報1、資料1、合計7編を掲載した「CIEC研究会報告集 Vol.8」（査読付き）を発行しました。

カテゴリー別の発表題目（著者）は、下記のとおりです。

#### 【 実践論文 】

- ・ゲーム機でのネット接続を題材とした情報モラル授業の開発と評価  
 -アニメーション教材の活用と話し合いを中心としたプログラム-  
 (敬愛大学国際学部 阿部学/ NPO法人企業教育研究会 竹内正樹/ 千葉大学教育学部古林智美/ 株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント 福永憲一)

#### 【 萌芽論文 】

- ・知覚認知/認知表現の違いと学習方略の差異-ICT活用のための学びの個性を考える-  
 (早稲田大学高等学院 吉田賢史/ 甲南大学共通教育センター 篠田有史/ NPO法人アクティブ・ラーニング・アソシエーション 大脇巧己/ 甲南大学知能情報学部 松本茂樹)
- ・日本語学習における誤りの共有と学びあいによる協同学習法とその実践  
 (三重大学工学研究科システム工学専攻 張莉・北英彦)
- ・色彩分析機能を持つ色彩学習システム  
 (金沢工業大学大学院工学研究科システム設計工学専攻 石川智久・鎌田洋)
- ・双方向授業システムにおける高精度化と学生の特長機能の試み

（金沢工業大学大学院工学研究科システム設計工学専攻 吉川柱太朗・山田圭祐・鎌田洋）

### 【研究速報】

- ・ことばの組み合わせを学ぶためのタブレットアプリケーション  
（三重大学工学部電子工学科 北英彦・松岡勇斗・舟橋恭平/ 鈴鹿市鼓ヶ浦小学校 勝井まどか）

### 【資料】

- ・授業における日経パソコンEduの活用と評価  
（独協大学経済学部経営学科情報学研究所 立田ルミ）

## 2. 2017年度活動方針

2016年度と同様に「CIEC 春季研究会 2018」を開催し、「CIEC 研究会報告集 Vol.9」（査読付き）を発行する予定です。応募された論文がより向上することを目的とした査読をこれまで通り実施します。研究会の開催については、他学会との共催や連携も積極的に行い参加者数の増加や新たな会員獲得に貢献していくものとします。また、昨年同様に支部企画として実施されてきた研究会についても、CIEC 研究会として一元化しCIEC 研究会の開催回数名の元でデータベース化し、広く会員に参加を呼びかけていきます（ただし、希望があれば支部として重ねてきた開催回数を併記します）。

### 小中高部会

#### 1. 2016年度活動報告

- (1) 2016PCカンファレンス（大阪大学豊中キャンパス）において、生協部会と連携し、セミナーを担当  
テーマ：小中高で身に付けるべき『情報力』とは

- (2) 研究会（小中高部会主催2回、協力1回実施）

2016年度は、プログラミング教育に関する研究会を実施しました。

- ・CIEC 第110回研究会

プログラミング教育からコンピュータ・サイエンスへ

～何を目的にプログラミングを教えるのか～

開催日 2016年12月04日（日） 13:00 - 16:30

会場 Google 東京オフィス

〒106-6126 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

- ・CIEC 第111回研究会

Chibi:bit (BBC Micro:bit) を使って考えるプログラミング教育

～英国で100万人の子どもに無料配布される教材をどう使うか～

開催日 2017年6月11日（日） 12:00 - 16:00

会場 日本Microsoft

〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー

- (3) その他

- ・PCカンファレンス北海道 協力

日時 2016年10月22日（土）、23日（日）

会場 札幌学院大学

- ・第108回研究会 協力

日時 2016年7月24日（日） 13:00 - 17:30

会場 青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル9階第16会議室

## 2. 2017年度活動方針

- ・ポストアクティブラーニング

アクティブ・ラーニングはICTなしでも実施できるという視点のもと、ICTを活用することの意義と不易な授業方法の実践的研究を共有し、新しい学習形態を探り、学びの環境をどのように創るか探求します。

### ・コンピュータ・サイエンスとSTEAM(STEM+Art)教育

STEAM教育が世界的に注目され、日本においても次期学習指導要領において各教科に「情報」が記載され、プログラミング的思考が小学校から展開されます。小中高部会では、2016年度よりコンピュータショナルシンキングからのアプローチでプログラミング的思考にフォーカスしてきました。2017年度は、各国の状況を調査し、単なる言語教育ではなく各教科に落とし込める論理思考を育むプログラミング教育について検討します。

### ・学びの空間とICT

ラーニング・コモンズが大学の図書館を中心に広がり、アクティブ・ラーニングの場として注目されています。教室を越えて、児童・生徒による自主的な学びのコミュニティにおける学びや、キャリア教育のために社会との結びつきを実現する場となることを支援する図書館の役割や機能の可能性を探ります。

### 具体的な活動

- (1) 研究会の実施（内容は未定だが、3回、東京だけでなく他道府県でも開催を検討）
- (2) 世話人会の実施（年3回、関東・関西で開催予定）
- (3) 2017PCカンファレンス（慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス）への参加・協力
- (4) 北海道地区において、PCカンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施
- (5) 国際活動委員会との連携
- (6) 研究委員会との連携
- (7) プロジェクトへの協力

## 外国語教育研究部会

### 1. 2016年度活動報告

#### ■ 概要

2016年度は、「Swift 言語によるプログラミング入門 - Swift Playgrounds を用いた教材作成」のテーマのもと、基礎から応用まで参加者のレベルに応じた構成で第10回、第11回の2回の学習会を行いました。第10回は、2016年11月13日（日）、立命館大学大阪いばらきキャンパス(OIC)で、株式会社 CA Tech Kids 黒川広貴氏、部会世話人から立命館大学木村修平氏を講師に迎え初級者向け学習教材(Learn to Code 1)を使ったワークショップを実施しました。第11回は、2017年5月21日（日）、大学生協杉並会館2階204・205会議室で、有限会社快技庵代表高橋政明氏及び部会世話人木村氏を講師に迎え、初級者向けと中上級者向け2つのコースに分かれた学習会を行いました。中上級者向けは、初級者向けのコース内容をすでに学習済みであることを前提として実施しました。

#### ■ 詳細

まず、2016年度第1回目として、第10回学習会を2016年11月13日（日）立命館 OIC にて開催しました。冒頭、木村氏により、国内外におけるプログラミング教育の現状と展望についての紹介が具体例を適宜参照しながら行われ、同時に今回の学習会で取り上げる Swift 言語の特徴についての簡単な説明がなされました。前者については、過去の IT プラットフォーム等を巡る国際間技術競争に敗れた経験を教訓に、今後技術立国日本の人材育成に不可欠と思われるコンピュータ科学教育の一環としてのプログラミング教育の重要性が増してきたことが、欧米諸国やアジア近隣諸国（とりわけインド）の例と比較しながら説明されました。また、後者については、Swift 言語が macOS, iOS 向けソフトウェア開発用プログラミング言語として公開されたもので、初心者にも理解しやすい学習ツール Swift Playgrounds が教育機関向けに無料提供されていることが紹介されました。

上記の説明に続いて、今回の学習会講師を担当する CA Tech Kids 大阪支社長の黒川広貴氏の個別指導（コーチング）により、Swift Playgrounds の初級者向け学習教材 Learn to Code 1（英語版）の各単元に沿ってワークショップ形式の Swift プログラミング体験学習が実施されました。参加者は、当初期待していた以上に小学生と保護者、小学校教員から大学教員、企業関係者まで幅広く、プログラミング経験も全くの初心者から中級レベルまで相当の差がありました。にもかかわらず、3D アニメーションを取り入れたプログラム実行画面や双六パズル形式のタスク設定、豊富なヒントなど、教材の随所に多彩な仕掛けと工夫が盛り込まれているため、最後まで集中して学習課題に取り組んでいたのが印象的でした。

次に、2016年度第2回目として、第11回学習会を2017年5月21日（日）大学生協杉並会館の204・205会議室にて開催しました。今回は、第10回の学習内容を踏襲、深化させるとともに、初学者にも参加して

もらいやすいよう、参加者のレベルに応じた初級者向けと中上級者向けのプログラムを考え、同時進行形式で、2つのワークショップを行いました。初級者向けでは、木村氏が前回学習会と同様、冒頭スライドを使いながら、プログラミング教育およびSwift言語の概要について説明しました。その後、Swift Playgroundsアプリの体験学習に移り「コードを学ぼう1」（日本語版）の各項目を通してコマンド、関数、forループ、条件分岐などプログラミングの基本事項を学習しました。

前半の学習項目については、参加者の学習進捗状況に相当の差があり、情報系科目担当教員はスムーズに課題をこなしていくのに対して、英語教員などは「関数」の課題を解く段階で難儀していました。後半の学習項目では、情報科の教員でもループ、条件分岐などの課題では試行錯誤を繰り返すなど、学習が順調に進まない局面も見られました。

中上級者向けでは、高橋氏が主にスライドを使いながら、前半は「プログラミングとアプリ作りについて知る」「Swift Playgrounds 操作の勘所を確認する」をテーマとした講演を時折デモを交えながら行いました。随時質問を受けながら、アプリ作成に必要なコーディングスキルとSwift Playgroundsアプリ本体のSwift言語学習に関連した操作上の留意点などを丁寧に説明しました。後半は「コードを学ぼう2 -コトと注意点」と題して、実際に「中級編」と位置づけられる学習教材アプリの使い方を中心に説明とコード実行例のデモが項目ごとに繰り返し行われました。説明の際には、Swift Playgroundsアプリ特有の用語やコーディング上の制約、「ステージを作る」と「ループを作る」の各課題解決に関連したヒント、デバッグ時のツール活用方法などが実例を伴って紹介されました。高橋氏は、さすがにプログラミングの専門家らしく、Swift Playgroundsアプリそのものの学習教材としての完成度にも言及されていました。さらに上級者向けツールとして表面的には見えない膨大なソースコードを「補助ソースファイルを表示」させることによって確認する手法を実例によって示され、同時に上級編に位置づけられる「コードを学ぼう3」の内容にも触れられるなど、次回の学習会プログラム立案への示唆に富む内容でありました。

## 2. 2017年度活動方針

2017年度の活動計画は、2016年度の活動を受け、継続的、発展的学習会を企画し、会員に有意義なワークショップ・スタイルの集中型セミナーを2回実施したいと計画しています。第12回は、第10回からの継続で、Swift Playgroundsの続中・上級編を行ないます。第13回は、新企画として、「動画を作ってみよう<その1>」を計画しています。

〔活動計画概要〕以下の2案を企画し、実施します。

### <案1>

題名 教材作成のためのプログラミング言語入門その3

場所 大学生協杉並会館（あるいは世話人所属の大学など）

時期 2017年10月ないし11月頃

概要 教材作成のために、初等中等教育から高等教育まで幅広く参加者を対象としたプログラミング言語入門講座（続中・上級編）を提供する。Swiftなどに代表されるスクリプト言語は英語コマンドなど自然言語に近い体系を持っており、タブレット、スマートフォンに最適化した簡単なアニメーションを実行する教材アプリを自作してもらいます。

### <案2>

題名 動画を作ってみよう <その1>

場所 大学生協杉並会館（あるいは世話人所属の大学など）

時期 2018年5月あるいは6月頃

概要 小学校から大学まで幅広い教員を対象に、既成アプリケーションを利用して、5分～10分の短い動画教材作成のノウハウを提供する。たとえば、iMovieやMovie Makerの活用法、動画編集の仕方、YouTubeへのアップロードの仕方をシリーズにして学習してもらいます。

## 生協職員部会

### 1. 2016年度活動報告

#### (1) 研究会／企画

8月/PCカンファレンスセミナー3

テーマ「2020年に向けた電子デバイスを活用した学習・教育環境の変化を考える

～小中高の情報教育の変化と大学での情報教育の変化～

パネリスト：辰己丈夫（放送大学 情報コース 教授）

中野 淳（日経BP社/教育とICT Online 編集長/コンピュータ・ネットワーク局 教育事業部プロデューサー/日経BPイノベーションICT研究所上席研究員）

2020年をひとつの節目に、大学入試が変わろうとしています。小中高では生徒自身が電子デバイス活用を通して社会への適応力を身につける実践が行われる一方、大学では教育端末のBYOD化の進展とともに初年次情報教育の見直しを迫られているという意見も多く聞かれます。

ここでは二人の後援者から、1.小中高大における情報教育の現状、2.いま社会で起こっている様々な問題から見える生徒・学生が身に着けるべきリテラシーについての提言、3.電子デバイスそのものや活用法についての未来予想図、などを話題として提供頂きました。会場からの発言とあわせ、学生にとっての「学び」の価値、「学び方を学ぶ」ことの大切さ、デバイスを問わず情報環境・教育環境を整備・提供することの重要性など、が語られたセミナーになりました。

## (2) 世話人会（関東世話人会計5回実施）

2016/8/11(大阪大)	2016PCカンファレンス セミナー登壇者打ち合わせ
2016/10/19(関東・田町)	今後の活動について打ち合わせ
2017/3/10(関東・杉並)	2017PCカンファレンス打ち合わせ
2017/3/21(関東・杉並)	2017PCカンファレンスセミナー企画打ち合わせ
2017/5/22(関東・杉並)	2017PCカンファレンス セミナー企画打ち合わせ

## 2. 2017年度活動方針

- 1) 学生同士の学び合いや経験を継承する場としてのパソコン講座の研究。現状と変化について継続的調査を行う。
- 2) 大学入試をはじめとした2020年問題を目前に控え、大学を取り巻く環境を知り、大学生になる高校生がこれからどのようなICT教育を受けて大学入学してくるのか調査・報告を行い、生協職員・大学生協としての関わり方を研究する。
- 3) 上記、1, 2の活動を通じて生協職員のCIEC会員の増加につとめる。

## 北海道支部

### 1. 2016年度活動報告

#### (1) PCカンファレンス北海道2016の開催

開催日：2016年10月22日(土)、23日(日)

会場：札幌学院大学(実行委員長 皆川雅章)

主催：PCカンファレンス北海道2016実行委員会

共催：CIEC(コンピュータ利用教育学会)、全国大学生協連合会北海道ブロック

後援：北海道教育委員会、江別市教育委員会、札幌学院大学

開催テーマ：学力向上・修学支援とICT

概要：特別講演では、「聴覚障がい学生の修学支援とICT」と題し筑波技術大学の三好茂樹氏より、また、「北海道における教育の情報化の取組について」と題し、千歳科学技術大学の小松川浩氏よりご講演いただきました。両講演の後、1時間程度の質疑応答が行われましたが、講演内容を深めることができる有意義なものでした。

パソコンテイク(情報保障)体験では、札幌学院大学の学生による、ハンズオンによるワークショップが行われた。音声を二人一組となって「あうん」の呼吸で入力していき、そのテキストがほぼリアルタイムに学生のスマートフォン送られてくる仕組みを実体験しました。

分科会では道外(8件)を含め28件の発表がありました。発表テーマは、実践に基づくもの、萌芽的研究、北海道の特性を生かした実践報告等多岐に渡っており、有意義な研究交流の場となりました。

#### (2) 研究会の共催(CIEC第112回研究会)

開催日：2017年6月18日(日)10:00-12:00

会場：札幌北口カンファレンスプラザ

講師：高麗大学准教授 金子美

演題：韓国でのプログラミング教育と教員養成

主催：CIEC(コンピュータ利用教育学会)国際活動委員会

共催：CIEC(コンピュータ利用教育学会)北海道支部

概要：今回の研究会は、2017PCカンファレンスのセミナーのプレ企画としての位づけを持つも、高麗大学の金子美准教授に講演していただきます。なお、高麗大学の李元揆教授に通訳および情報提供のご協力をいただき、日韓での「学校における情報教育環境」、「情報系の教員養成」、「コンピュータプログラミング教育と教員養成」など幅広い視点での講演と議論を行う予定です。(2017



年5月26日現在)

なお、本研究会は国際活動委員会と北海道支部との共催企画となっています。

### (3) 学校の玉手箱の開催

Apple Store 札幌を会場に27回（28回目は他会場）開催してきましたが、2016年2月26日に閉店したことに伴い会場が無くなったため開催を中断しています。

### (4) 大学入学生を対象にしたコンピュータに関する調査

北海道内8大学、1000名超のデータを継続的に収集しフィードバックを行っており、情報教育担当者の共通基盤として有効活動されています。

## 2. 2017年度活動方針

### (1) PCカンファレンス北海道2017の開催

10月28日（土）、29日（日）に室蘭工業大学を会場に開催することが決定しています。

### (2) 研究会の開催

時期、会場は未定であるが例年通り研究会の開催を予定しています。

### (3) 学校の玉手箱シリーズの開催

学会員以外も気軽に参加しやすい会場での開催を予定しています。

### (4) 引き続き北海道の大学1年生を対象にした調査を実施します。

## 九州支部

### 1. 2016年度活動報告

2016年度の九州PCカンファレンスは、11月5、6日に大分大学で、テーマを「IoT時代に生きる若者たち～おんせん県の新たな源泉～」として、160名の参加を得て開催された。初日の基調講演Ⅰ「技術の人間化」では「まるでだまし絵のように、人間の解釈を揺さぶるインタラクティブなグラフィックス表現」をテーマに、ゲームのような作品の紹介もあり、参加者に好評でした。続いて基調講演Ⅱは「地方から世界へ～コンテンツビジネスを通して観る世界から～」をテーマとし、テレビ関係者2名のトークショー形式で行われました。二日目の分科会は3つに分かれ、第1、第2分科会では関東からの発表1本を加えて7本の発表がありました。第3分科会は、CIEC九州支部「情報生活サポート研究会」の主催で「大学生協PC講座への電子教材導入に関する考察」をテーマとし、大学生協のパソコン講座に関わる学生と生協職員が多数参加してワークショップ形式で進められました。また、今回は新しい試みとして二日目の最後にシンポジウムが設定されました。テーマは「新しい時代を生きる若者たちを育てるために取り組み～学校教育現場と大学における教職員への支援・人材育成～」と、CIECらしい企画でした。

### 2. 2017年度活動方針

九州ではPCカンファレンスを、ICT教育や情報化社会について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えています。2017年度の九州PCカンファレンスは、10月に北九州大学で開催する予定で準備を進めているところです。

情報生活サポート研究会では、ICTを活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとして研究活動が継続されますが、教員、生協職員、学生の協同の中で、新しい時代における大学生協の役割も見えてくるのが期待されています。

その他の支部活動についても、九州PCカンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索します。

## MERLOT ワーキンググループ

### 1. 2016年度活動報告

○WGの目的：

CIECがグローバル化の一環としてMERLOTプロジェクトに参画することになったのを機会に、会員からのOER (Open educational resources) の積極的な提供を目的に、MERLOTワーキンググループを組織しました。そして、全国にわたるワークショップなどの開催を通してMERLOTへより多くのCIEC会員の参加を促します。

#### (1) 2016PCカンファレンスでの「シンポジウム」の実施

テ　　マ：「MERLOT型ラーニングコミュニティ支援とは」

パネリスト：Dr. Gerard L. Hanley (Executive Director, MERLOT CSU Office of the Chancellor)

皆川雅章 (札幌学院大学)

星健太郎（早稲田大学グローバルエデュケーションセンター）

サルバ・ミシュカ・カリラ（大阪教育大学）

モデレーター：吉田晴世（大阪教育大学），武沢護（早稲田大学大学院・高等学院）

(2) ワークショップの企画・運営

○第1回 MERLOT ワークショップ

開催日：2017年1月4日（水曜日）13：30-16：30 / 1月5日（木曜日）10：00-12：00

会場：早稲田大学高等学院

参加人数：4日：19名，5日：7名

内容：1月4日（水）講演，MERLOTの体験（閲覧，登録など），質疑応答・意見交換，懇親会  
1月5日（木）MERLOT体験（コンテンツ作成実習など）

○第2回 MERLOT ワークショップ開催

日時：2017年3月14日（火）

会場：大阪教育大学柏原キャンパス

参加者数：9名

内容：MERLOT体験（コンテンツ作成実習など）と質疑応答

(3) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し，情報発信を行いました。

2. 2017年度活動方針

「ワーキンググループの組織化とその活動の活性化」

メーリングリスト活用などによる情報交換ならびにそのメンバーによるコンテンツの提供を実施します。

(1) 2017PCカンファレンスでの「セミナー」の実施

テーマ「オープンエデュケーションリソースと著作権について  
-MERLOTコンテンツを充実させるために-

パネリスト：重田勝介（北海道大学 情報基盤センター）

中野淳（日経B P社教育とICT Online）

モデレーター：武沢護

(2) ワークショップの企画・運営

○第3回 MERLOT 夏季ワークショップ（関東地区）

日時：2017年9月3日（日），会場：早稲田大学早稲田キャンパス（14号館）

講師：Gerard L. Hanley氏

○第4回 MERLOT 夏季ワークショップ（関西地区）

日時：2017年9月5日（火），会場：大阪教育大学天王寺キャンパス

講師：Gerard L. Hanley氏

○PCカンファレンス北海道でのワークショップを計画中

(3) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し，情報発信を行いません。

(4) その他

各WGメンバーが国内外において積極的な情報収集や視察を行い，情報交換します。

2016年7月

- 01日(金) 2016年度一般社団法人CIEC定時社員総会 開催公示  
 15日(金) 役員選挙電子投票締め切り  
 20日(水) 役員選挙管理委員会  
 21日(木) 監事会(大学生協杉並会館)  
 24日(日) CIEC第108回研究会(国際活動委員会企画)(会場名:青山学院大学)  
 テーマ「ここからはじめる「学び」のための学習分析(LA)  
 - LAの海外事情と標準化活動を基礎にして -」

2016年8月

- 09日(火) PCC第4回実行委員会  
 第1回理事会(大阪大学)  
 広報・ウェブ委員会(大阪大学)  
 10日(水) 2016PCカンファレンス(会場名:大阪大学) テーマ「知の協奏と共創」  
 11日(木) 2016PCカンファレンス  
 2016年度一般社団法人CIEC定時社員総会  
 会誌編集委員会(大阪大学)  
 12日(金) 2016PCカンファレンス

2016年10月

- 16日(日) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)  
 23日(日) 三役会議(大学生協杉並会館)  
 22日(土) PCカンファレンス北海道2016(会場名:札幌学院大学)  
 テーマ「学力向上・修学支援とICT」  
 22日(土) PCカンファレンス北海道2016(会場名:札幌学院大学)  
 23日(日) PCカンファレンス北海道2016(会場名:札幌学院大学)

2016年11月

- 05日(土) 2016九州PCカンファレンス(会場名:大分大学)  
 テーマ「IOT時代に生きる若者たち ~おんせん県の新たな源泉~」  
 13日(日) 外国語教育研究部会第10回学習会(立命館大学大阪茨木キャンパス)  
 テーマ「Swift言語によるプログラミング入門  
 - Swift Playgroundsを用いた自作アプリケーションの作成 -」  
 20日(日) 三役会議  
 第2回理事会  
 広報・ウェブ委員会  
 26日(土) CIEC第109回研究会(会場名:日本マイクロソフト品川グランドセントラルタワー)  
 テーマ「新しい情報教育環境 -クラウドサービスがつくる新しい学びの環境 -」

2016年12月

- 01日(木) 『コンピュータ&エデュケーション vol.41』発行  
 04日(日) CIEC第110回研究会(会場名:Google 東京オフィス)  
 テーマ「プログラミング教育からコンピュータ・サイエンスへ  
 -何を目的にプログラミングを教えるのか-」  
 18日(日) 研究委員会(大学生協杉並会館)  
 27日(火) 三役会議(大学生協杉並会館)  
 2017PCカンファレンス第1回実行委員会(大学生協杉並会館)

2017年1月

- 04日(水) 第1回 MERLOT ワークショップ(会場名:早稲田大学高等学院)  
 05日(木) MERLOT 体験 コンテンツ作成実習(会場名:早稲田大学高等学院)

2017年2月

- 15日(水) PCカンファレンス分科会受付開始

2017年3月

- 12日(日) 三役会議  
 第3回理事会  
 広報・ウェブ委員会  
 14日(火) 第2回 MERLOT ワークショップ開催(会場名:大阪教育大学柏原キャンパス)  
 15日(水) 2017PCカンファレンス第2回実行委員会(慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス)  
 25日(土) CIEC 春季研究会 2017(会場名:東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター)  
 26日(日) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)  
 28日(火) 国際活動委員会企画 韓国視察・交流  
 (訪問先:韓国教育學術情報院 KERIS 及び五星(O-Sung) 中学校)  
 29日(水) 国際活動委員会企画 韓国視察・交流(訪問先:高麗大校)  
 31日(金) 2017PCカンファレンス分科会締め切り

2017年4月

- 15日(土) 学会賞公募開始(5月10日締切)  
 16日(日) 2017PC PCカンファレンス分科会時間割編成会議(大学生協杉並会館)

2017年5月

- 12日(金) 2017PCカンファレンスリーフレット発行  
 21日(日) 外国語教育研究部会第11回学習会(大学生協杉並会館)  
 テーマ「Swift 言語によるプログラミング  
 - Swift Playgrounds を用いた教材作成(基礎と応用)-」

2017年6月

- 01日(木) 『コンピュータ&エデュケーション vol.42』発行  
 04日(日) 三役会議(渋谷インターカレッジコープ)  
 第4回理事会(渋谷インターカレッジコープ)  
 11日(日) CIEC 第111回研究会(会場名:日本マイクロソフト品川グランドセントラルタワー)  
 テーマ「Chibi:bit (BBC Micro:bit) を使って考えるプログラミング教育  
 ~英国で100万人の子どもに無料配布される教材をどう使うか~」  
 18日(日) CIEC 第112回研究会((国際活動委員会企画)(会場名:札幌北口カンファレンスプラザ))  
 テーマ「韓国でのプログラミング教育と教員養成」  
 24日(土) 2017PCカンファレンス第3回実行委員会(慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス)

以上